HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	月刊DRF 第22号
Author(s)	デジタルリポジトリ連合
Issue Date	2011-11-01
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/73507
Type	periodical
Note	事務局: 北海道大学附属図書館; http://drf.lib.hokudai.ac.jp/ で公開したもの
File Information	DRFmonthly_22.pdf

Instructions for use

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

月刊 DRF

Digital Repository Federation Monthly

第22号

No. 22 November, 2011

【特集1】平成23年度第2回機関リポジトリ新任担当者研修 レポート
【特集2】平成23年度機関リポジトリ中堅担当者研修 レポート
＜トピック＞Open Access Week 2011 開催イベント

特集 1

DRF主催/NII共催

平成23年度第2回 機関リポジトリ新任担当者研修

（NII会場第1回）

平成23年10月6～7日に、国立情報学研究所12階会議室にて、平成23年度第2回機関リポジトリ新任担当者研修を開催しました。

9月の第1回から注目を集めた新任担当者研修。第2回は募集開始直後から応募が殺到！ 定員の関係からやむなく即日募集終了としましたが、急遽第3回の追加開催を決定したのでした。

今回は、そんな大人気の講義の様子と、受講生の声をお届けします。

※ 講義内容は第1回と同じです。月刊DRF21号をご覧ください。

外の景色が素晴らしく、とてもいい場所です

講義は真剣に

既に構築済の機関から来ましたが、まだ担当になって日が浅いため大変勉強になりました

どの事例もとても興味深かったです。真似したいと思いつつ、まだどこもやっていないことをやりたいという思いもふつふつと湧いてきました。刺激になりました

先生と関わりを持つ重要性を再認識すると共に、担当者としてきちんと説明、対応できるよう準備しておかないと、と改めて思いました

UsrComはすごく良いと思うので帰ったらさっそくやってみます。

いつも見ていた謎の画面にはこういう背景や意味があった！という発見がありました

実習は二人一組で相談しながら

“自分の大学の教員を知らずにIRの成功はない”あらためて痛感しました

実は1番不安に感じている事が著作権だったので、ていねいに解説頂けて助かりました

すごい濃い1日でした。ただ、何より皆で色々としゃべりながら作業できたのが楽しかったです

グループ討議・発表は盛り上がりました

他大学の方針や考え方を、討議の中からも伺うことができ、有意義だったと思います。場慣れが大切とも講師の方からコメントがありましたので、機会があれば逃げないで、取組んでいきたいです

「そういうことだったのか！」という目からウロコな気分でした。今まで、わかっていたつもりでわかっていなかったのだと、勉強不足を実感しました

リポジトリの勉強もできて仲間も増えて、なんてすばらしい研修会だと思いました。たのしかったです。講義のペースが時々はやいなって思うこともありましたが

第3回研修は11月21～22日、同じくNII会場で行われます。
次回も受講生の方に満足いただけますように。

特集 2

DRF主催/NII共催

平成23年度 機関リポジトリ中堅担当者研修

初開催

平成23年10月20～21日に、九州大学附属図書館新館にて、平成23年度機関リポジトリ中堅担当者研修を初開催しました。

月刊DRF19号で「機関リポジトリだけでなく、現代の学術コミュニケーションに関する課題や背景となる知識を掘り下げて学ぶ」という内容紹介に加え、講師にも受講生にも「おそらくとてもハード」と予告された中堅研修。はたして実際はどうだったのか!? その様子をお伝えします。

プログラム1日目（10月20日）

✔ 受講生アンケートより

学術情報流通史　内島秀樹（金沢大学）

1980年代から現在に至るオープンアクセスの歴史を年表で確認。インターネット、OA、行政、出版者、と各者の動きが色分けされ、わかりやすいと受講生に好評でした

✔ OAの歴史が色分けにより分かりやすくつかめました。
✔ 外雑の価格高騰がなかったら、Open Accessの流れはどうなっていたんでしょうか。ゆるやかに動いていったんでしょうかね。

雑誌価格問題への抵抗史　尾城孝一（大学図書館コンソーシアム連合）

研究者コミュニティの抵抗、SPARC、コンソーシアム交渉…。「敗北の歴史」との総括に会場には衝撃も。学術出版のコスト問題に対し、購読・グリーンOA・ゴールドOAが三位一体となって取り組む必要があるとの指摘がなされました。

✔OAの話題になる時思うのですが、「洋雑誌を担当しておけばよかった」と。 ✔雑誌は学術コミュニケーションの中核にあたる部分だけにその価格問題は図書館だけでなく機関、ひいては国全体で対応していかなければならない問題と思いました。

班討議「学術コミュニケーションの最新動向」

尾崎文代（広島大学）内島秀樹
森いづみ（国立情報学研究所）

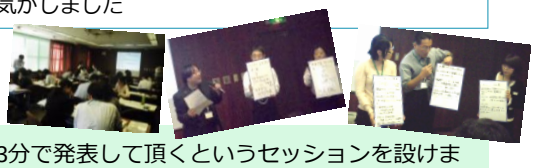
出された事前課題のOA関連英語文献を読んだり国内外の動向を調べるなど準備した上で班討議に臨み、各班まとめをホワイトボードでプレゼン。講師からの講評により理解がさらに深まりました。

✔課題は難しかったですが班討議は楽しかったです。 ✔外国論文を読むのは大変ではありましたが面白くもありました。

国内学会出版の現状と将来　林和弘（*SPARC Japan*）

研究者を取り込んだところが学会機能を担う.図書館でもエディターの役割を担えるのではとの指摘がなされました。

✔図書館員の議論は往々にして自分達の中だけの自分達に都合のいい議論になってしまいがちで、学術情報のあり方を決めるのはあくまで研究者であることを忘れてはならない。✔図書館がすすむべき未来像の一端が見えた気がしました



中堅担当者研修がめざしたもの　内島秀樹（金沢大学）

DRF中堅研修では、事前に課題を出して、当日その回答をグループで議論し、3分で発表して頂くというセッションを設けました。大学図書館の研修で前もって調査し、その結果を報告、討議するのは珍しいでしょう。でも、受け身で講師の話を聞いて勉強になったね、という講演形式の研修は自分自身もひょっとして皆さんもうんざりしているので、こうした形式を試みたわけです。

中身は大学の演習の発表のようなものを想定して作りました。テーマとしては、

(1) OA政策やIRの海外における進め方への理解の促進
(2) OAの基本文献を読み解くことによるOAの理解
(3) 形式的には、やや無理をして英語文献や英語情報源に挑んでみる

が念頭にありました。

討議用事前課題：OAに関する3宣言の相違と同一性、 ハーナッドの主張・論点、 米IR運動の得失、 ElsevierのOAポリシー、 英国FAIR概要と意義、 PloSの歴史、 DRIVER他国際プロジェクトの全体像、 OAと引用の相関の論点整理

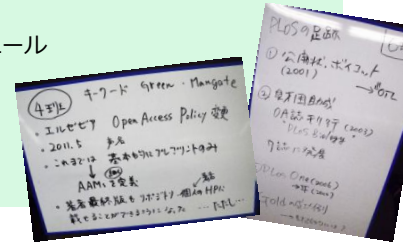
なかなか、大変な課題で英語自体も難しいものがありました。しかし、私自身も依頼を受けた文書（論文みたいなもの）を書くために、必要に迫られて、手探りで読んで調べた情報が出題源で、今回の受講者の皆さんと同じ苦労と経験をしました。

出題者の勝手な意図としては、自分の所属するセクション（IR担当）を超えて学術情報流通のいろんな側面について自由に考えてみる、そうした習慣を身につけて頂ければこの研修（コマ）の目的は達成されたことになるように思います。

是非、今回の経験を生かして、海外のMLなどを購読して、海外情報を（時々でいいので）キャッチしてもらうきっかけになれば、幸いです。

最後に推奨のＭＬを３つ。上から順に、イギリスのJISC、ハーナッド先生、そして最後がエール大学のアン・オカーソンがやっている電子ジャーナルネタのMLです。

JISC　https://www.jiscmail.ac.uk/cgi-bin/webadmin?A0=jisc-repositories
ASOAF　http://amsci-forum.amsci.org/archives/American-Scientist-Open-Access-Forum.html
Liblicense　http://www.library.yale.edu/~llicense/mailing-list.shtml



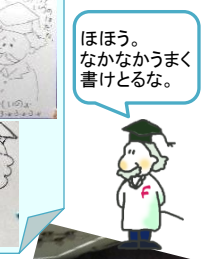
初開催

情報交換会

途中の余興では、DRFのマークや、会場校九大図マスコットのきゅうと君、そして Dr.Fを何も見ずに書き比べをしました。上手にかけた順に翌日班別討議の発表順を決めました。

講師陣グループが書いたDRFマーク。島の数が…？

こっちが正解。左上は沖縄だそうです。



プログラム2日目（10月21日）

オープンアクセスジャーナルの動向

杉田茂樹（小樽商科大学）

商業出版も参入中の著者負担型OAジャーナルの概要・仕組みを説明。今後"Open Access Mega Journal" の時代に入るとの、PLoSによる見解が紹介されました。論文の価値判断をめぐるプロセス、出版コスト負担の矛先の変化等、今後のIR戦略を考える上でも注視していく必要があります。

✔ 教員の方に知ってほしい内容も多く、是非戻ったら仲の良い先生から伝えてみたいです。 ✔「品質は保証するが価値は保証しない」は非常に端的でわかりやすかった。

海外出版社のオープンアクセス戦略

山下幸侍　石井奈都（シュプリンガー・ジャパン株式会社）

山下氏からはSpringerのOAへの取り組みが紹介され、OAはビジネスモデル、人、システム、いずれにおいても従来とは全く異なるとの言葉が。石井氏からはBioMed Centralの説明。論文のリジェクトとOA誌との関連についても興味深いお話がありました。

✔ 今後のOAジャーナルのあり方、生き残り方を考えるきっかけになると思う。✔ OAはAPCという新たな収入源(?)を生み、出版者にとってもビジネスとして成り立つとの見解が新鮮だった。

機関リポジトリを支える技術基盤　内島秀樹

コンテンツ同定のための仕組みDOI、著者同定のための仕組みORCID。リポジトリの相互運用の基盤となる技術の説明が行われました。

✔ 利用者が気持ち良く使える仕組みにする等今後のシステム構築に向け大変参考になりました。✔DOIやCrossRefの存在はなんとなく知っていて便利と思っていても、よく知らなかったので勉強になりました。

班討議「学術コミュニケーションの諸課題」

尾崎文代　杉田茂樹　森いづみ

1日目とは異なる班分けで、躍進する中国への対応、著者支払型OA誌が増加する中での図書館の新たな役割案、などの課題に対し様々なアイディアが出されました。

✔ 図書館の一員として真摯に学術コミュニケーションの将来について考えてみることは大切だと思う。✔ こういった討議を通して図書館の今後を考え直す良い機会になりました。自分の業務の意味・存在価値を考えることも大事かなと思いました。

機関リポジトリのコンテンツ増進戦略

鈴木雅子（旭川医科大学）

班討議「機関リポジトリのコンテンツ増進戦略」

尾崎文代　鈴木雅子 森いづみ

これまでの国内のIRコンテンツ増進戦略を概観。万能の方策はなく、自機関にあった方策を自分で考える必要があることを確認した後、 継続性のある、日常的にコンテンツを増やすための新たな戦略について討議しました。様々なアイデアが発表され受講生を大いに刺激しました。全体討議では、「研修前半で話し合った内容・状況の中で、IRをがんばる必要はあるのか？」との問題提議に対し、「世界がどう動くかは不明。私たちは目の前の先生方のための可視化向上を当然やるのだ」との発言があり、会場全体がカづきました。

✔ とてもやる気の出てきた講義でした。少しモチベーションも下がってきたところだったので、OAウィークへの取り組み、日常業務への反映について意識を持ち直しました。✔ 研究者の研究活動プロセスをこれまで以上に理解する必要があると感じました。✔ 各大学での様々な意見を聞けて、アイテム数を増やすアイデアを多く得ることができました。

まとめ（受講生の「宣言」）　上田大輔（広島大学）

最後に、各受講生が決めた期限までにやることについて、決意表明し、研修は終了しました。

全宣言　1人で登録する状態を脱却。専任スタッフを育成する　/ 月に2回、文献DBで、本学の論文を探して「おめでとう＆原稿下さい」メールを送り効果があればルーチン化したい　/ 先生に会ったら、ただ通り過ぎず、お話して「論文下さい！」とPRする　/ 北見工大の教員全員に1編以上の論文を登録してもらう　/ リポジトリの意義について教員と事務担当者に説明する　/ 学内の研究経費申請の条件に「IR登録」を明文化する　/ 農林水産版のリポジトリシステムを完成させ、情報量の充実に向けた取り組みを行う　/ 本文公開数を1500件を目指す！（1年後）/ 本文登録数10、000件目指す！ / 話のできる先生を新たに10人つくり、OAと研究・教育とIRの話をする（今年度中）/ 世界のより良い学術流通実現のために勉強を継続し、日常業務に誠心誠意取り組んでゆきます　/ リポジトリと研究者データベースとの連携（来年度くらい）/ 現在構築しているリポジトリシステムへ各研究所の研究者の方が自分から入力していただけるよう普及活動を頑張ります　/ コンテンツ登録件数を昨年度2000件を上回るようあと1500件収集する（期限：今年度末）/ ILLに依頼のあった論文著者の先生と仲よくなり、リポジトリに登録する論文をもらう　/ 毎日コツコツ登録しBarrelをコンテンツでいっぱいにする　/ リポジトリの登録してくれる先生を増やす！　/ 大学についてもっと知るようにして著者版収集のルーティーンを作る。今年中。館内広報のためまずは館内WGに手伝ってもらう　/ 三誌以上、今後発行される紀要について論文電子化の義務化を行う　/ 研究報告の投稿規定に論文提供を正式に入れる　/　研究者総覧システム登録者の8割に、自ページの更新をしてもらう　/ GINMUのカスタマイズを終わらすぞ～！

受講生がそれぞれ抱いていた「大変そう」という心配を吹き飛ばし、終了後は「有意義」「楽しい」「多くの人に受けてもらいたい」等、非常に前向きな反応が得られ、受講生も講師も満足した研修になりました。次回開催の際は、ぜひご参加ください。

修了第1号

今年もやってきました国際オープンアクセスウィーク!!

日本各地でさまざまなイベント・企画が催されました。ほんの一部をご紹介。

オープンアクセスウィーク 2011.10.24－30

国際オープンアクセスウィーク 2011.10.24-30

小樽商大

記念展示「オープンアクセスとBarrelの現況」

10/18～31

10/24

大学事務職員向け勉強会「オープンアクセスて何？」

旭川医科大

図書館サイエンスカフェ「旭医の新しい“風”ジャムセッション」

10/26

青森県立保健大

特製

OAWブックカバー

SPARC Japan

セミナー「OA出版の現況と戦略」

10/28

金沢大

ワークショップ「グローバルな学術世界と研究」

10/25

聖学院大

OA紙芝居 On Air

熊本大

研究者連続インタビュー「教員7人に聞きました」

10/24～

神戸大

講演会「Kernelが拓く研究の未来」

10/26

奈良先端大

オープンアクセス講演会 at NAIST

10/31

OAW写真大募集 !!

他にもイベント・企画が目白押し。

OAWサイトはこちら　http://cont.library.osaka-u.ac.jp/oaw/

OAWサイトへ活動を投稿しませんか？　oaw @ lib.hokudai.ac.jp

次号予告

【特集1】 11月10日 DRF8 報告(第13回図書館総合展)
【特集2】 11月10～11日 Berlin9 報告
【特集3】OAWeek レポート　SPARC JAPAN セミナー

月刊DRFでは、みなさまからのお便りをお待ちしています。gekkandrf@gmail.com

http://drf.lib.hokudai.ac.jp/gekkandrf/　月刊DRF第22号　平成23年11月1日発行　デジタルリポジトリ連合